



<説明会>

2026年度以降、日本語教育学会の運営はどう変わる？ ——第3次中期計画策定の現状と今後——

公益社団法人 日本語教育学会
会 長 西口 光一
副会長 小澤 伊久美



これまでに ご報告してきたこと

1. 本学会の現状とこれから
2. 第2次中期計画の点検・評価
3. 第3次中期計画の骨子

以下にも第3次中期計画の骨子の資料を
再掲しました

理念体系—使命・学会像・全体目標・2015-2019 年度事業計画 より

*使命（ミッション）

学会は何のために存在するのか、学会が果たすべき社会的役割、責任とは何か、長期的視点に立って、最終的に達成したい根本的な目的は何か、を示すもの。

*学会像（ビジョン）

そうした使命を果たすために、学会はどのような組織でありたいか、学会の将来像を示すもの。

*全体目標（ゴール）・事業・組織・財政方針

本学会の使命を実現させるために、具体的に何をめざして何をするのかを示すもの。全体目標に基づき、事業・組織・財政についての基本方針が示されている。

*2015-2019 年度事業計画

上記の目標を達成するために、中長期的視点に立って策定される、具体的な事業目標・内容・方法を示すもの。これを踏まえて各年度の事業計画が策定される。



図 2.1 理念体系の構成

第3次中期計画でも継承

- ❖ 使命（ミッション）
- ❖ 学会像（ビジョン）
- ❖ 全体目標（ゴール）
- ❖ 事業・組織・財政方針
- ❖ 2015-2019年事業計画

第1次中期計画	2015-2020	[6か年]	※
第2次中期計画	2021-2025	[5か年]	※
第3次中期計画	2026-2030	[5か年]	

※当初予定を1年間延長して実施した

学会の使命

「人をつなぎ、社会をつくる」

目指す学会像

「共に集い、行動する学会」

学会の全体目標

- 日本語教育の学術研究を牽引し、研究者を育成する。
- 日本語教育の実践の創造と深化を共有し、実践者の育成を図って、学習環境を整備する。
- 日本語でコミュニケーションと相互理解を深め、人生を豊かにする。
- 日本語でともに生きる豊かな社会を創造する。

第2次中期計画の
点検・評価を踏まえて策定

第3次中期計画の基本的考え方（骨子）

2025.3.20理事会承認

～理念実現のための事業再編と組織改革～

骨子Ⅰ 学びの場としての学会の発展

骨子Ⅱ 第2次中期計画の点検・評価を踏まえた改革

骨子Ⅲ 管理体制の整備と財政の健全化

骨子 I 学びの場としての学会の発展

本学会は、より多くの、そして、より多様な日本語教育の関係者が集い、互いに学び合い、ともに成長する場となることが求められている。

しかし、現状の組織体制や財政状況を踏まえると、短期間での実現は困難である。

そのため、第3次中期計画では以下を通じて段階的に学びの場としての基盤を強化する。

1. 大会事業等の抜本的な見直し

持続可能な運営形態を模索しつつ、参加者の多様化を促進し、新たな交流や学びの機会を提供する。

2. 第4次中期計画への布石

骨子Ⅱ 第2次中期計画の点検・評価を踏まえた改革

本学会の理念や全体目標は会員に広く共有され、事業の実施状況も概ね順調であるが、事業担当者の負担の増大と財政の逼迫が大きな課題であることがわかった。

この課題を解決し、理念の実現を加速させるため、第3次中期計画では事業再編と組織改革に取り組む。具体的には以下の4つの目標を掲げる。

1. 情報共有の促進と意思決定の迅速化
2. 事業全体を俯瞰した上での事業の実施
3. リスク管理の強化
4. 社会的潮流に対応する柔軟性の確保

骨子Ⅲ 管理体制の整備と財政の健全化

財政の逼迫が事業運営や管理体制に深刻な影響を及ぼしている。事業担当者である理事・委員会には、管理業務の現状や課題を事業ほど十分に把握することが難しかった。

財政逼迫の影響が大きくなるとともに管理面の課題が大きくなり、これを解決するには、事務局のみならず理事・委員会もともに管理体制を検討する必要がある。

第3次中期計画では業務執行理事を中心に管理体制の改善に取り組む。具体的には以下。

1. 理事・委員会・事務局間の連携強化
2. 財政の健全化のための情報共有と検討

財政状況開示だけでなく関係者が十分意味を理解し、意見交換する体制を整える。

また、持続可能な資金調達のために会費や寄付だけでなく収益事業の導入を検討する。



本日は右記に関する 進捗状況をご報告します

1. 事業や委員会の再編・統合
2. 大会の在り方再考
3. 事業以外の管理運営の検討

学会誌事業は、委員会での議論を
踏まえて理事会等で審議
(まだ理事会での審議開始前)

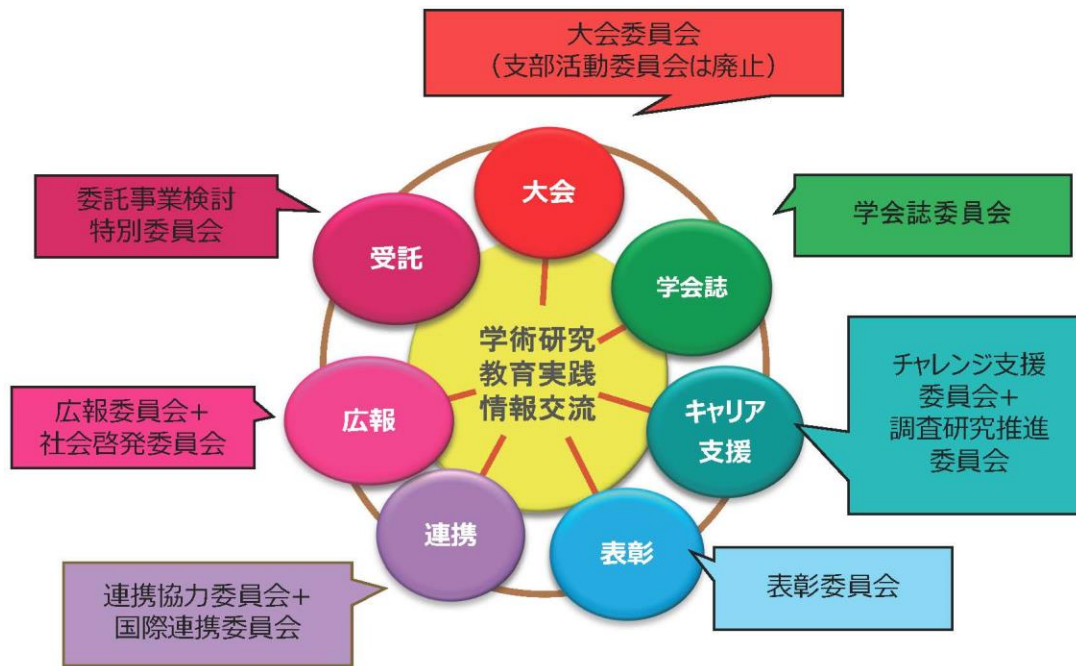
1) 事業と所掌委員会を7つ程度に再編・統合

1. 新委員会は2027年6月始動

- 再編・統合案を各委員会・常任理事会で検討中。

2. 2026年度の事業と運営

- 再編・統合後をイメージして、現委員会で事業計画を作成。
- 運営は現委員会が行う。
- 委員会以外が所轄の事業も含め全体は常任理事会で審議。



2) 大会事業再考：2027年度春季大会から本格始動

1. 春季大会（対面開催）では交流をさらに促す工夫をする。

- 初日は無料プログラム、二日目は有料プログラム。
- ポスター発表や交流ひろば等、交流型の企画を中心にする。

現在、企画について検討中

*それが実現可能な会場を選定済

2. 秋季大会（オンライン開催）は、研究中心にしてスリム化しつつ、採択数を確保する。

- 二日間とも有料プログラム。
- 会場の制限から公募発表を採択できないという状況を避ける。
- 口頭発表の事前動画提出をやめ、全てをライブ・リアルタイムで（2026年度春季大会より）。

3. 2027年度春季大会準備の負担軽減のため2026年度は春秋ともにオンライン開催とする。

- 二日間とも有料プログラム。

4. 大会参加希望者が予定を組みやすくなるよう、大会開催日及び場所は早めに公開する。

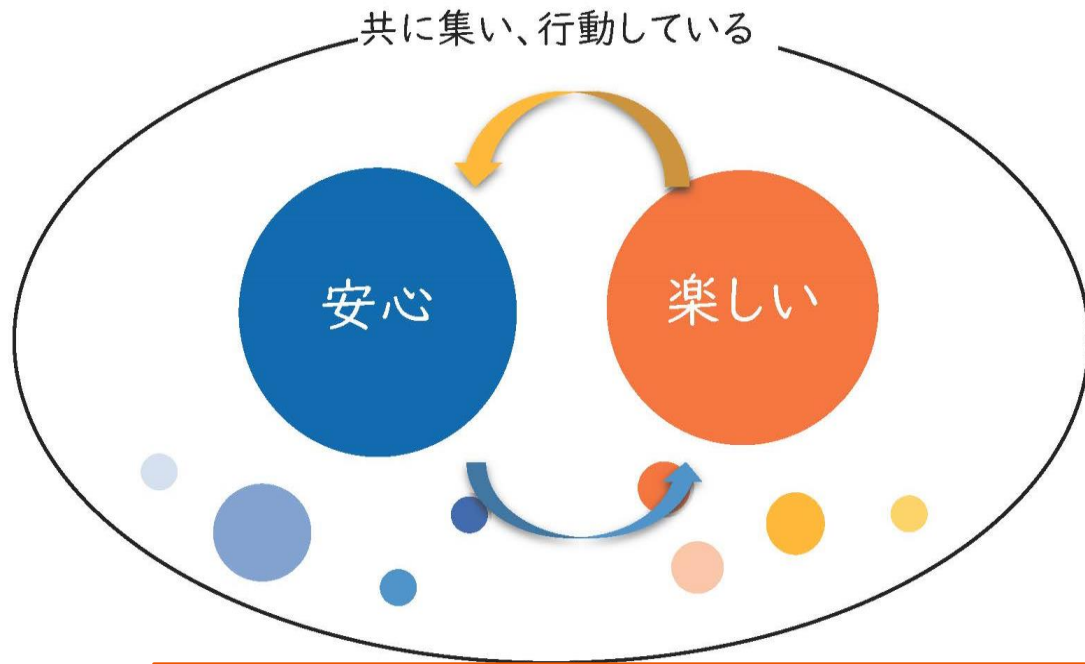
3) 事業以外の管理運営について再考

1. 管理運営の整備に取り組めるよう管理体制を見直した。

- 常任理事・理事は従来の委員会所轄事業だけでなく、管理業務も担当する形とした。
- 全体を俯瞰して検討するために、既存のコンプライアンスワーキンググループに加えて、新たに3つのワーキンググループを設置した。
 - 大会事業検討ワーキンググループ
 - 財務検討ワーキンググループ
 - ハラスメント対策検討ワーキンググループ
- 会議の在り方を見直し、限られた時間で重要事項をタイミングよく審議できる形とした。
- 事務局員を委員会担当制から業務担当制に移行し、管理業務従事者の不足に対応することとした。

2026年度に実施できるよう
現在、具体的な案を検討中

2. 「安心」「楽しい」をキーワードに運営全体を見直す。



関係者が「安心」と「楽しさ」を感じて <共に集い、行動している>

*「安心」と「楽しさ」は独立したものではなく、相互に作用している。

関係者とは、日本国内外の...

- a. 日本語教育の研究者・実践者
- b. 日本語を学習する人
- c. 日本語を使用する人
- d. 日本語教育に関連する機関・団体
- e. 日本語教育の支援者
- f. 日本語教育に興味・関心をも人々

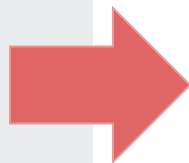
*代議員、運営を支える委員・理事・監事・事務局等も関係者。

これらの人々が「楽しさ」や「安心」
を感じられる運営を目指す

例 「a. 日本語教育の研究者・実践者」が本学会に参加することで感じる楽しさや安心感

楽しさ	- 自分の研究や実践に関連した学びや気づきが得られた。 - 自分の研究や実践を発表し、意義を認められたり、コメントをもらったりした。 - 出会って良かったと思える人びとや団体などに出会えた。 など
安心	- 法的・倫理的に間違った行動を取ってしまう危険性がない。 - 質の悪い情報を提供されて学んでしまう危険性がない。 - 好ましくない人や団体と出会って仲間になる（仲間として認識される）危険性がない。 - 心理的・物理的に不安や恐怖を覚える危険性を感じない。 - 信頼できる団体・仲間と行動している人・団体であるとして第三者の信頼を得られる。 など

2026年度より
第3次中期計画を実施



ご意見・ご質問を
お寄せください



<https://forms.gle/4FptyHJ624YQq6qFA>

今後のスケジュール

2025年度

12月 代議員懇談会：進捗状況報告・意見交換

12月 常任理事会・理事会：

第3次中期計画案及び2026年度事業計画案の中間報告（全委員会からの報告を踏まえて）

2025年度事業と予算執行状況の報告

各種規程・規則の改定等を承認

1-2月 常任理事会：2026年度事業計画・収支予算案の審議

2月 賛助会員の集い：進捗状況報告・意見交換

3月 常任理事会・理事会：2026年度事業計画・収支予算の最終案、第3次中期計画の最終案の承認

2026年度

4月 第3次中期計画に基づく運営スタート

7月 常任理事会：委員改選の基本方針案を承認

12月 常任理事会・理事会：委員会設置運営規程を改定

3月 常任理事会・理事会：次期委員の承認

参考資料

西口光一・小澤伊久美（2024a）「日本語教育学会の現状とこれから（2024年度春季大会説明会動画）」

https://www.nkg.or.jp/musubu/contents/kenkyu/20240625_2719297.html

西口光一・小澤伊久美（2024b）「日本語教育学会の現状とこれからのを考える（2024年度秋季大会説明会資料）」

https://www.nkg.or.jp/musubu/contents/kenkyu/20241128_2825444.html

西口光一・小澤伊久美（2025）「日本語教育学会の第3次中期計画の骨子について（2025年度春季大会説明会動画）」

https://www.nkg.or.jp/musubu/contents/kenkyu/20250612_2995536.html

日本語教育学会（2017）「理念体系—使命・学会像・全体目標・2015-2019 年度事業計画」

https://www.nkg.or.jp/assets/rinen_2015-2019.pdf

日本語教育学会（2021）「第2次中期計画2021-2024：2021-2024年度 事業・組織・財政実施計画」

https://www.nkg.or.jp/assets/chukikeikaku_2021-2024.pdf

日本語教育学会（2025）「第2次中期計画の点検・評価の報告」

https://www.nkg.or.jp/assets/chukikeikaku_2021-2024_hyouka.pdf